

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171700261		
法人名	株式会社 ユニマツトそよ風		
事業所名	こうのすケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県鴻巣市天神4-32-1		
自己評価作成日	平成25年3月14日	評価結果市町村受理日	平成25年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成25年4月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●毎月、季節を感じて頂ける様なイベント行事や、毎月の外出で四季折々の花の鑑賞や地域の催しなどへ出かけ、気分転換を図っています。●毎日、散歩に出かけ地域とのかかわりを図っています。●毎日の食事作りのほか、誕生日会やフードセラピーでおやつ作りも楽しんでいただいています。●身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会主催のグループワークや勉強会などで身体拘束廃止の意識を高めています。●防災面では避難訓練、消火訓練、通報訓練の他、グループワークや消防署による講話なども実施しています。●お鍋や焼肉、カラオケパーティ、外食などをご家族様にも参加して頂き楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者の個性や希望を尊重しながら、利用者本位の介護を提供するという姿勢のもと、職員のケアへの考え方も統一されている。また、自立支援に対しても、効率よりも利用者の持っている能力を活かすことを重点的に検討されて、介護計画が立てられ、実践されている。
 ・ご家族アンケートでも、「職員の方も丁寧な対応で、入居している人のペースに合わせた対応である」、「グループホームであるため、本人も生活者の一員として、様々な作業を行っているようで、それが良いことだと思います」などのコメントが寄せられ、信頼関係も築かれている。
 ・目標達成計画の達成状況については、災害対策での地域との協力体制の習慣化、具体化に取り組み、合同避難訓練や地区の自主防災会に参加されたこと、また、日常の外出支援を家族にアピールすることも取りあげ、家族会で一緒に外出していただく企画が実施されたことから、目標を達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 このすけあセンターそよ風	「笑顔で生活。安心・安全な環境」を理念に掲げ、住み慣れた地域で一人ひとりの利用者が安心した環境の中で笑顔の絶えない生活を送れるよう支援している。	理念の読み合わせも頻回に行うことで、職員間にその考え方が根付いてきており、自立支援に着目されたケアや安心、安全な環境整備にも努められている。また、それぞれの利用者の笑顔を支える個別支援にも気を配るなど理念が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設として自治会へ加入し、地域の様々な行事へ参加したり、施設のイベントへ招待するなど、積極的に地域との交流を図っている。地域合同の避難訓練を行うなど地域の一員としての役割を担っている。	地域の行事へ利用者が参加するだけでなく、職員も地域の住民と一緒に協力することにより、事業所全体として、地域に溶け込めるよう努力されている。散歩中、近隣の方から声をかけてもらったり、農作物を分けてもらうなどの交流も図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の為、実習生の受け入れをしたり、地域の中学、高校からの職場体験実習の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議のうち、一回は市役所も参加して頂き情報交換や助言を頂いている。また、運営推進会議での意見は職員全員が周知徹底するようにしている。	定期的で開催され、幅広い分野からの参加者の意見を取り入れる機会として活用されている。参加者からは、日常の業務に対しての意見・提案の他、ターミナルケアについての情報交換をするなど、事業所の運営にも反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所としての活動報告や介護サービスについての取り組み状況、報告、相談等、良好な関係作りに取り組んでいる。	市主催の事業所連絡協議会に参加することで、地域の情報や介護保険に関する情報などを聞く機会となっており、日常的に相談できる窓口として連携が図られている。また、市の催しへの参加もあり、交流、協力を努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会が中心となり、グループワークや勉強会で学んだことを現場に活かすようにしている。また、利用者が外出するときは付き添い、安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。	法人全体での勉強会には職員が交代で参加し、身体拘束廃止について幅広い知識を身につけるように、事例検討やグループワークなどが実践されている。勉強会で学んだことは、職員間で共有され、事業所の運営にも活かされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加したり、身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員主催の勉強会やグループワークを実施し意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内、社外の研修や勉強会などで知識を身につけている。成年後見制度が必要なケースでは、管理者、計画作成担当者が対応し、必要な支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を心がけ、不安や疑問がないか尋ね、納得いただけるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、運営推進会議や家族会などでご意見やご要望を伺う機会を設けている。頂いたご意見やご要望はミーティングやタ礼の際に職員へ周知徹底している。	利用者からは普段から話をうかがい、出かけたい場所や誕生会のメニューを聴きとり、生活に反映させている。家族からは運営推進会議や家族会で提案をいただき、職員の顔写真や氏名を入り口に掲示してほしいという要望なども実現されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議だけでなく、各委員会的活動からも職員個々より意見を取り入れ、業務改善・ケアの質の向上につなげられるようにしている。	各種委員会活動により、職員の意見やアイデアがサービスに活かされ、業務改善にもつなげられている。また、新しい職員の意見や疑問も重視され、それらからベテラン職員も学ぶことが多く、社歴やユニットを越えた話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援を行ない取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員主催の定例勉強会を毎月行っている他、支社内の意見交換会も行っている。また、外部の研修を受講できる機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会には参加していないが、支社内の意見交換会に参加しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談のあった時は、必ずご本人の心身の状況の把握に努め、ご本人の思いや要望を伺い、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	きめ細かく普段の生活状況等を伝え、家族が困っている事や不安に思っている事などを聞くようにし、より良い環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談には、可能な限り対応をし、場合によっては他の事業所のサービスにつなげる対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、職員と利用者の信頼関係が築ける様、努めている。普段から、利用者様から教えて頂くことが多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いや要望をお聞きするとともに、日頃の様子やご本人の思い、職員の考えを細かく伝えていくことで、支援の方向性を一致させ、協力してご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、今まで使用していた物を持参して頂く事で、落ち着いて生活できる環境作りに努めている。また、併設のデイサービス利用の知人との交流を支援したりして思い出を断ち切らないように支援している。	ご家族が付き添って、馴染みの美容院へ出かけたり、古い馴染みの電気屋に家電の修理を頼んだり、以前からの付き合いが継続されている。また、併設されているショートステイ、デイサービスに通う顔なじみの知人との交流も図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて家族や他の事業所の相談にのって支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを取りながら意向を聞いて実施したり、日々の関わりの中で言葉や表情、行動などから利用者の思いを汲み取り、意向の把握に努めている。	入居前の生活状況や様子を家族や以前の担当職員から聴きとられるほか、普段の様子を観察することで、気持ちや体調の変化に気が付くよう配慮がなされている。引込み思案の利用者の小さな要望にも対応するよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用を開始する際にご本人、家族から聞き取る他、利用後もご本人、家族とのコミュニケーションの中から生活歴や馴染みの暮らし方、生活状況などをお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し、言動や小さな変化を見逃さないよう、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、ご本人やご家族の要望を聞き、利用者の現状に即した介護計画を作成している。毎月、生活の目標を決め、張り合いのある生活を送って頂ける様、支援している。	カンファレンスには利用者も参加され、職員、家族、医療から、それぞれの問題点や改善点を話し合い、利用者が納得された介護計画が作られている。利用者個々の生活目標も決められ、ケアプランの第2表に反映させ、支援が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排せつなどの身体状況、その日の様子や言動などを個々のファイルに記録し、介護計画に沿った援助を心がけている。また、個々の記録から介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援を柔軟に対応している。また、医学的処置が必要なケースでは併設のディサービス、ショートステイなどのナースに協力を得て柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカのボランティアが毎月来訪したり、防災訓練に地域住民や地域の消防団が参加するなど、安全で楽しく暮らせる支援をしている。また、運営推進会議などで民生委員との意見交換もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は家族の協力を得ながら、支援を行なっている。医療機関との連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。	医療機関との連携は、協力医、かかりつけ医とも図られ、受診時には普段の健康状態を記録したものを情報提供され、診察結果も家族と共有されている。また、事業所、家族、医療間の信頼関係を考慮し、訪問看護の導入も検討されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の看護職員に相談し、利用者の健康管理、状況に応じた支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、職員がお見舞いに伺うなどして安心して頂けるよう支援している。ソーシャルワーカー、ご家族と情報交換しながら回復状況など速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を伺いながら、かかりつけ医と相談し、状況の変化に応じた支援を行なっている。職員間で利用者の状況を共有しチームでの支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の利用者や家族の気持ちは、その都度変化していくことを考慮し、状態に合わせて話し合いや方針の再確認が行われている。また、職員の精神的負担にも配慮し、過度の負担にならないようフォローにも努められている。	運営推進会議に置いて、ターミナルケアについての話し合いが行われ、家族の関心も高いことから、利用者や家族の個々の希望や不安などを話し合い、グライバーにも配慮しながら、将来の方向付けを決めていくなどの取り組みに期待したい
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急手当や蘇生方法などの普通救命講習を定期的を受講し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員対象の通報訓練や消火訓練の他、利用者家族・近隣住民・消防団・消防署の協力を得ての避難訓練を実施したり、消防署の方の防災講話を実施している。また、地域の消防組織にも加盟した。	地域の自主防災会に参加し、連絡体制や協力体制が構築され、今年度は想定別に合同訓練が3回実施されている。地区全体から、事業所の現況への理解も得られ、また、東日本大震災の経験から、事業所を避難者の受入れ場所とすることなども話し合われている。	予測できる災害を想定した防災訓練が地域住民の参加を得て実施されているため、今後も継続して取り組まれるとともに、具体的な役割分担や連携方法の検討を重ねていかれることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。会社としてプライバシーマークの取得に向けて、全職員がプライバシーに対する意識を高めている。	職員同士の会話、書類の取り扱い、排泄への誘導など、プライバシーに関わることには、特に注意を払い、利用者の尊厳を守るよう努められている。「人生の先輩であり、その生きてきた人生を否定する権利はない」との考えが浸透されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方には表情で読み取れるよう配慮したり利用者に合わせた声掛けを心がけ、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、一人一人のペースを大切にし、体調や気持ちに配慮して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に服を選んだり、家族が来所された際に好みを伺ったりしながらおしゃれや身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しから調理、後片付けまで利用者と職員が一緒に行っている。職員も同じテーブルで楽しく食事をし、セレクトメニューや小鉢、パン、おやつなどのバイキング等を楽しんで頂いたり、おやつ作りなども楽しんで頂いている。	主采のセレクトが可能であり、朝食やおやつでは、バイキングを行うなど、利用者に食事を楽しんでいただいている。季節に合わせた献立を多く取り入れ、家族に献立表を送付することも習慣化され、また、利用者ができる準備や後片付けなどは生活目標に設定されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎日チェック表に記録し、職員が共有して一人一人の状態や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人一人に応じた見守りや援助を行っている。就寝前には口腔ケア後、義歯洗浄剤に浸している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を使用して一人一人の排泄パターン、習慣などを把握してトイレ誘導をしている。	トイレでの排泄を継続して行けるように、個別の自立支援方法が検討され実践されている。入退院により、一時的に体力が低下した場合でも、介護計画での運動目標を設定し、自立支援をサポートされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を良くする食物や食材の調理に工夫をしている。また、運動への働きかけで自然排便できるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日以外毎日、午後4時から行っている。また、利用者からの提案で入浴の順番を曜日で変えたり、季節により柚子湯、しょうぶ湯を楽しんで頂いたり、同施設内の大浴場での入浴も行っている。	これまでの生活習慣に配慮し、入浴は夕方の食事前に行い、利用者の提案で、一番風呂や男女の順番を日によって変えるなどの工夫も図られている。また、同施設内の大浴場にみんなで出かけて、入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整え、夜は良眠できるよう支援している。また、夜、寝付けない時は温かい飲み物を飲みながらおしゃべりしたりして気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて処方箋を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は職員間で確認し合い、服薬後もきちんと内服できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力を活かして仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。また、季節の外出先や、イベントの企画を利用者に相談しながら楽しみにつなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩の他、食材や日用品の買い物に車で出掛けるなど利用者の意向に合わせた支援を行なっている。また、家族会などで、家族から行きたい場所を伺うなどして一緒に出掛けられるよう支援している。	外出支援については、職員の発想だけでパターン化しないよう、利用者の意向を聴いて、藤の花見や雛人形展などに出かけられている。また、家族に組みがアピールできるよう、家族会で家族も一緒に外出、外食をする企画も設けられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や力に応じて家族の協力を得て所持したり、使えるよう支援する他、外出レクの一環として買い物ツアーを企画し、本人が好きな物を選び、ご自分で支払うなどの援助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は事務所でお話できるようなっている。また、年賀状や手紙を出すための支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心する家庭的な安らぎを演出し、家庭での音・匂いなど生活を感じる環境作りを大切にしている。また、季節に合った食材を使用してお菓子作りをしたりしている。	利用者の生活の場として、職員や家族と一緒に調理をしたり、食卓を囲むなどの取り組みがなされている。また、非常階段に蓄光テープを貼ったり、利用者と一緒に掃除を行うなど、安全や環境面への配慮もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチや、フロア内のソファ、畳などで自由に過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人一人の好みや馴染の物を活かして心地よく過ごせるよう工夫している。	愛着のある嫁入り道具の筆筒や鏡台、趣味の書道具や骨董品、ハーモニカ、写真など、個別の自分らしさのある居室作りが支援されている。また、安全面にも配慮され、家具の配置やポータブルトイレなどの配置にもアドバイスが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全の確保と自立への配慮をしている。		

(別紙4(2))

事業所名: このすケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日: 平成 25年 5月 10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	利用者の重度化や終末期に対する方針を個別で把握する。	個々の重度化した場合や終末期のあり方についての意向を家族と共有する。	利用者一人一人の家族との面談日を調整し現在の状況や終末期に対する意向を話し合い、今後の方針を決めていく。	3ヶ月
2	35	防災訓練を定期的に行ない、具体的な役割や連携方法を検討する。	防災訓練を定期的実施しているが、継続しつつ、新たな課題を見出す。	夜間通報訓練、消火訓練、避難訓練など様々な想定での防災訓練を実施する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。